



第4章

雪対策の方向性

第1節 目指すべき将来と取組の視点

第2節 計画の体系

第3節 取組の進め方

この章では、今後の雪対策の方向性として、目標とすべき将来と取組の視点、重点施策などを示します。



第1節 目指すべき将来と取組の視点

近い将来、人口減少や高齢化の一層の進行などといった、これまでに経験したことのない社会経済情勢が予測されています。

そのような中、札幌市の雪対策は除雪従事者の不足や高齢化の進行、増大する除雪予算など、第3章に記載のような課題を抱えております。

特に体制面では、現在、10cm以上の降雪のときに一晩で除雪を行う体制として、除雪機械約1,000台、従事者約3,000人を確保していますが、除排雪に携わる従事者は計画期間中に2割減少することが予測されていることから、除排雪体制を維持することが難しくなると考えられます。

また、財政面では、現在、市民生活や経済活動を支える冬期道路環境の維持に必要な除雪予算を確保してきていますが、2020年東京オリンピック・パラリンピック関連の建設需要や建設業従事者の不足などによる労務単価の上昇など、今後も除雪予算の増加が見込まれます。

一方、社会の動向に目を向けると、国においても建設業の健全な発展に向けて動き出しており、担い手確保のための「働き方改革」のほか、担い手不足を補うためにICTなどの活用による「生産性の向上」といった取組も始まっております。加えて、近年においては、企業のCSRや社会貢献活動が広がりを見せているとともに、SNSなどのソーシャルメディアの急速な普及といった社会の変化も出てきており、これらの様々な動きをしっかりと捉えて活用することにより、課題の克服につながることを期待されます。

そこで、人口減少や高齢化の一層の進行といった社会環境が大きく変化する状況の中であっても雪対策が抱える課題に対応し、市民の皆さんが将来にわたり安心して安全に冬を過ごせるよう、「目指すべき将来」を次のように設定します。

安心・安全で持続可能な冬の道路環境の実現

実現に向けては、除雪予算の増加を可能な限り抑えるとともに、ICTなどの先進技術を活用することなどにより、作業の効率化や省力化、労働環境の改善などにつながる取組を進め、安定的に除排雪体制を維持していきます。

そのための取組の視点として「安心・安全な冬期道路交通の確保」「除排雪作業の効率化・省力化」「除排雪体制の維持・安定化」「雪対策における市民力の結集」「雪対策に関する広報の充実」の5つを定め、その視点に基づき重点施策を展開します。

視点1 安心・安全な冬期道路交通の確保

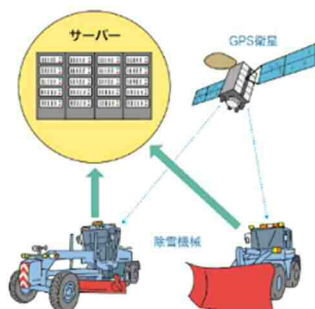
- 除排雪作業を工夫しながら限られた人員・体制においても、これまでの除雪水準²²の維持を目指します。



交通の流れがスムーズな幹線道路

視点2 除排雪作業の効率化・省力化

- 持続的に除排雪作業を進めるため、ICTなどの先進技術を活用し、作業の効率化や省力化を進めます。



GPSを活用した作業情報のデータ化

視点3 除排雪体制の維持・安定化

- 企業の経営の安定化に資する取組や労働環境の改善、人材の育成を支援し、除排雪体制の維持安定化を図ります。



1人乗り除雪車の導入に伴う実技講習

視点4 雪対策における市民力の結集

- 地域レベルの除雪に取り組む地域団体やボランティア企業の活動を支援し、地域の除雪力の向上を目指します。



小型除雪機を活用したボランティア除雪

視点5 雪対策に関する広報の充実

- 快適な冬を過ごせるよう、子どもからお年寄りまで幅広く市民に冬のルールやマナーなどの理解につながる広報を進めます。



新聞やテレビに加え SNS 等を活用した情報発信

²² 【除雪水準】幹線道路、生活道路、歩道といった道路種別ごとに、目標とする確保すべき「幅員」と「圧雪厚」「路面管理基準」などを示したものの。



第2節 計画の体系

計画策定の背景

社会環境の変化

- ① 迫る人口減少・超高齢社会の進行
- ・総人口・生産年齢人口の減少
 - ・老年人口・高齢単身世帯数の増加

② 建設業の動向

- ・建設技能労働者の減少
- ・有効求人倍率の上昇
- ・就業者の高齢化の進行
- ・年間総労働時間・出勤日数の改善が進まず停滞

③ 町内会・自治会の動向

- ・町内会の未加入者の増加
- ・役員の高齢化

④ 財政状況と今後の見通し

- ・義務的支出である扶助費の増加
- ・財政見通しは全く楽観視できない

雪対策の現状と課題

課題1 市民ニーズに対応した除排雪

- ・市民ニーズや超高齢化社会などに応じた冬期道路交通の確保
- ・パートナーシップ排雪制度の利用に係る町内会の負担増
- ・記録的な気象の発生

課題2 危ぶまれる除排雪体制

- ・除雪従事者の不足・高齢化の進行
- ・除雪オペレーターの厳しい労働環境
- ・除雪機械の老朽化の進行
- ・雪堆積場の郊外化の進行

課題3 増大する除雪予算

- ・労務単価や機械損料の高騰
- ・除雪予算の急激な増加

課題4 市民との協働による雪対策

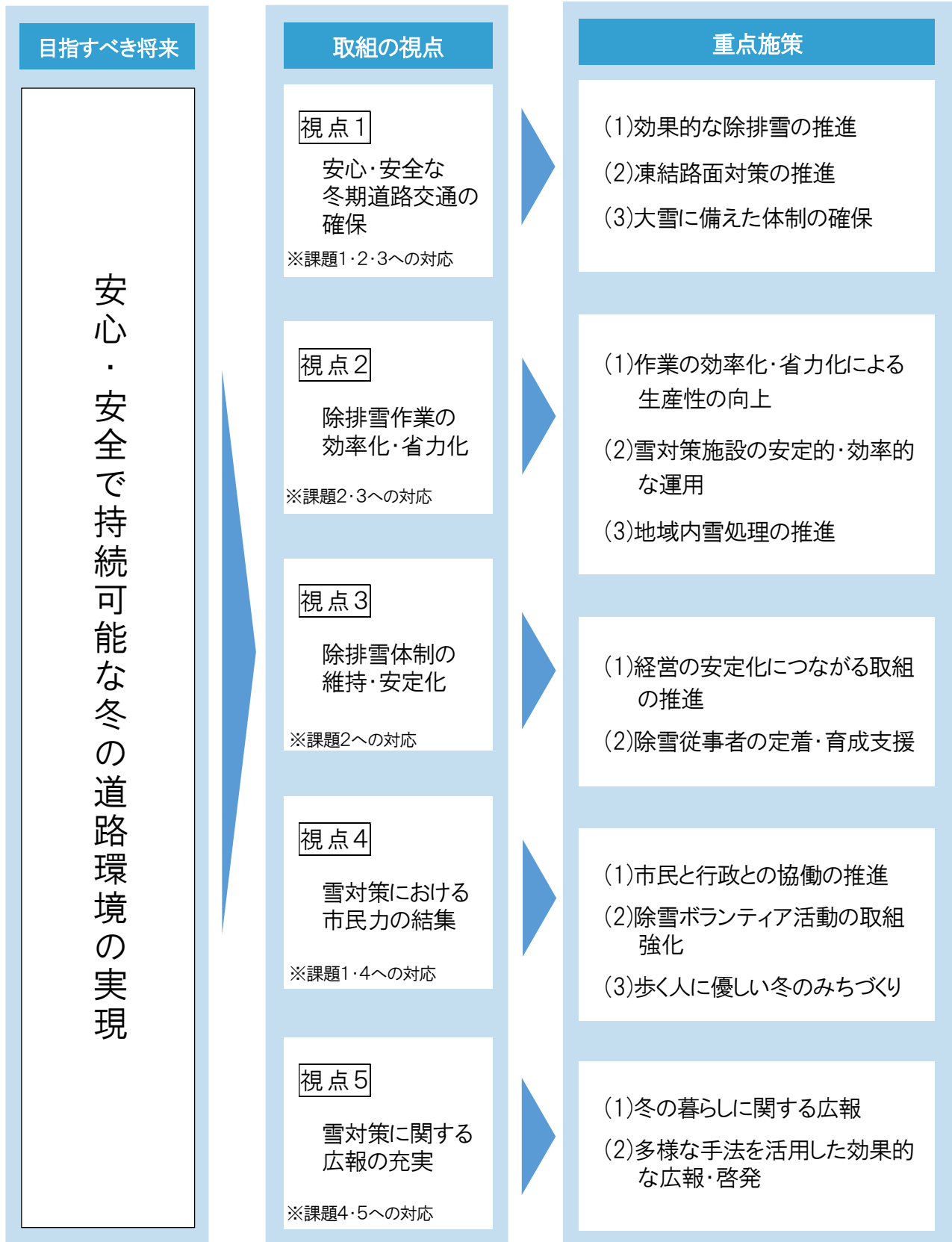
- ・高齢化の進行に伴う間口の雪処理への負担感の増加
- ・ボランティアの担い手不足への対応

課題5 雪対策に対する市民意識

- ・依然として一部の路線では冬のルールが守られていない

札幌市では、人口減少や高齢化の一層の進行といった社会環境が大きく変化する状況のなかであっても雪対策が抱える課題に対応し、市民の皆さんが将来にわたり安心して安全に冬を過ごせるよう、「安心・安全で持続可能な冬の道路環境の実現」を目指すべき将来として設定します。

実現に向けては、以下の5つを視点と定め、その視点に基づき重点施策を展開します。





第3節 取組の進め方

(1) 社会環境の変化を捉えた対応

本計画は、今後確実に見込まれる人口減少や高齢化の一層の進行などといった、これまでに経験したことのない社会情勢下での計画であることから、一定の除雪水準を維持し、冬の市民生活を守るためには、作業の効率化や省力化などの取組に加え、将来の除排雪体制に応じた作業上の工夫が必要になります。

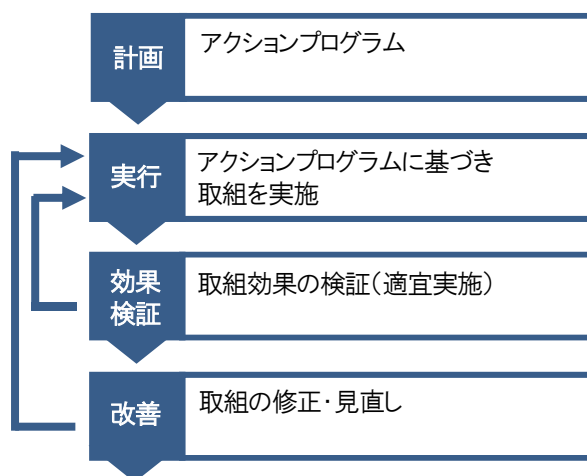
このため、これらの課題に対応する作業の効率化や市民力の結集などの取組は、以下のアクションプログラムに基づき着実に進めます。

また、市民生活への影響を考慮しつつ、これまでの作業方法や施設の運用方法などの見直しを検討する取組については、状況に応じて実証実験や市民議論などを行い、その結果を踏まえ、準備が整ったものから順次進めます。

(2) 実行計画(アクションプログラム)の策定

本計画には、今後 10 年間で実現すべき取組を位置付けており、その中には、短期的な取組や中長期的な視点で検討が必要な取組があります。

このため、その実行性を確保するため、上位計画である「札幌市まちづくり戦略ビジョン（次期アクションプラン）」と連動を図りながら、2019 年に具体的な活動指標や実施時期などを定める「実行計画（アクションプログラム）」を策定し、進行管理を行います。



〈実証実験や市民議論〉

- ・「実行」や「改善」の段階で、必要に応じて実証実験や市民議論などを行います。

【取組の進め方のイメージ】

(3) 雪対策における SDGs の推進

2015年に国連で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」において、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、17のゴールと169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals、SDGs）」が定められました。

SDGsの特徴は、経済・社会・環境の三側面を統合する施策の推進により、それぞれの課題の同時解決を目指すものであり、札幌市でも2018年6月に「SDGs未来都市」に選定されたほか、各種計画への反映や実践等、SDGsの達成に向け積極的に取り組んでいます。

本計画で定める雪対策は、環境負荷の抑制に努めながら冬期間の市民生活や経済活動を支える道路交通を円滑に保つという観点で非常に大きな役割を果たすとともに、住民間の連帯、物流網の確保、建設業の維持、ICTの活用、大雪への適応など持続可能なまちづくりに向けた多くの分野の課題解決に資することから、雪対策の推進をSDGsの達成にもつなげていきます。



【持続可能な開発目標(SDGs)、通称「グローバル・ゴールズ」】

